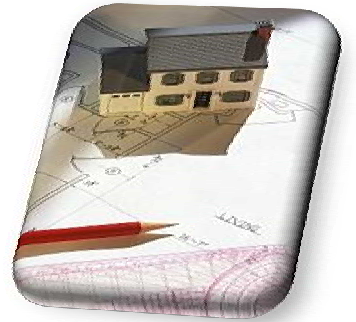


# 一から建て直すのでしょうか

社会保障のあるべき姿、また医療制度はどうあるべきかといったような問い掛けがあります。

「あるべきか」という問いに答えるのなら、そこでは当然に理念が先走るでしょう。

かつて未開の地であったアメリカでは観念論よりも経験論が優位に立ちました。たとえば未開の土地で家を建てるとすれば、観念論では先ず家の設計図を描きます。つまり家はこうあるべきだという前提が始まるということです。これに対して経験論では、とにかく家を建ててみます。未開のその地では台風や竜巻が多いかも知れないし、地震が来るかも知りません。台風で屋根が吹き飛ばせば、それを直すときに改良するのです。つまりそれまでのデータがなければ、取り敢えず建ててみるということです。



我が国では、社会保障も医療制度も現に存在しています。それは幾年月も掛けて培ってきたものに違いありません。ただ綻びの目立つことも決して少なくないといえます。

制度疲労という言葉がありますが、それなら吹き飛んでしまった屋根を直そうとしている最中なのか、それとも再構築といって家を建て直そうとしているのか。

データは十分に蓄積されているでしょう。だからこうあるべきだといって建て直しを図るのもいいのかわかりません。でも「こうあるべきだ」と理念が先走れば、その家は住みにくいものになるかも知りません。

弥縫策という言葉がありますが、現存のものを取り繕って少しずつでも改良していくのがいいのか、全く一から出直すくらいのことが必要なのか。

人にはそれぞれの考えがあって、またそう簡単には答えを出せるわけでもありません。だいたい個人や特定の人達の理念が先走ったところで、全ての人達に好ましい結果が生じる保障など何処にもないのですから。

あなたは図面を手はどうあるべきかとの問い掛けをしているのでしょうか。それとも結果が全てであるからと図面を持たずに話し合いの場を作ろうとしているのでしょうか。

わたしに興味があるのは、その家が丈夫で住みやすいものかどうかということだけです。



2009/12/22

みんなの歯科ネットワーク

